

# 一歩

## なりたい姿

みなさんは、周りからの見聞きした刺激や経験から「なりたい」自分の姿を考え、決定します。中学校卒業までに、将来の自分のなりたい姿を考え、決めることができればいいですね。

アメリカNBAのバスケットプレーヤーになった八村選手のニュースが話題になっています。

若い日本人バスケットボール選手の八村塁選手が、アメリカのプロバスケットボールリーグのNBAにドラフト選出されました。日本人初のNBAで、ドラフトの1巡目に選出されて、それが大きく取り上げられ報道されています。



彼は、中学校入学後に仲間に誘われて入ったバスケットボール部でバスケットボールを始めました。初めはへたくそで、部活動でコーチなどから指導を受けるとともに、同級生の仲間からも自分ができないプレーを教わったり、まねたりしました。朝練には誰よりも早く練習場所に行き、一番に練習を始めていました。3年生になったときには、八村選手は他の仲間と力量で並び、やがて八村選手にほうが他の選手より上手になっていきました。八村選手は、周りの仲間に対して、プレーの質についてより高い要求を出すくらいまで大きく成長しました。当時のコーチから「NBAに行け」と言われ、その言葉を心にとどめながら、バスケットボールを楽しみ、がんばってきました。



アメリカに行っても、朝は誰よりも早く練習場所のバスケットコートに行きます。そんな朝早くの練習で、時折八村選手より早くコートに来て練習している選手がいました。後で知ったことだそうですが、その人は世界のバスケットボールファンが憧れるマイケルジョーダンと同じチームの選手でした。ジョーダンは、華麗なプレーとそのセンスで多くの得点する選手です。そのジョーダンに「ココ」という絶妙なパスを出していた人が、八村選手より朝早く来ていたその人でした。時折、その選手と一緒に練習をするのですが、八村選手はゴール下でその人からのパスをキャッチすることができません。プロ選手にとってピンポイントに出される絶妙なパスなのですが、八村選手にはそれを受けるタイミングと技術がついてこなかったのです。そのパスに合わせてキャッチし、ゴールできなければいけないと自覚し、自分はまだプロプレーヤーとの差があることを知ります。トッププロと自分の差を埋めることが、自分を高め、プロに近づけてくれると気づいたのです。

八村選手の、このような自分から求めていく姿勢が、今回のようなドラフト結果にもつながっているのでしょう。

日本で活躍するバスケットプレーヤーの一人に、富樫勇樹選手がいます。千葉ジェッツというプロバスケットボールのBリーグで活躍チームの選手です。彼は、新潟県新発田市の本丸中学校の出身です。中学校時代には、夏の全国大会で優勝もし、チームの中心選手でした。その富樫選手は、日本人初の1億円プレーヤーとして最近話題になっています。



